別紙

平成２２年度　森プロ事業実績：朝霧の森プロジェクト

（平成23年3月末現在）

		H21年度	H22年度				5カ年
		実績	計画	実績	達成率	備考	計画
集約化(ha)		56	174	218	125%		584
作業道（m）		1,475	2,500	2,347	94%		11,000
間伐等	面積（ha）	30	160	124.4	78%	利用＋切捨	513
	材積（m3）	1,678	3000	2,377	79%		14,540
備考		団地外実績（利用間伐面積：58.36ha（うち国有林約50ha）、皆伐面積：2.5ha、搬出材積：9,937m3、作業道開設：8,656m（うち中津川915m））					

H22年度利用間伐等における所有者への還元額（補助金含む）　3,000 円／m3

施業集約化の状況
- 22年度集約化計画区域の笹ヶ洞・寺地地区については、施業予定区域の明確化および森林資源調査をほぼ完了。
- 今年度も引き続き隣接する信包地区への施業集約化へ取り組んでいる。

施業プランの活用状況
- 選定した利用間伐区域ごとに作成し、実施・様式等は更に検討中。

施業プランナーの養成状況
- 国研修を1名が受講し、プランナー認定を受けた。

作業道の状況
- 全体計画では幅員3.6mのトラック運搬用の幹線と、それに接続する支線は車輌系システムでの搬出路を計画しているが、22年度の事業地は山足の長い地形状況から判断して既設の林道等から継続して利用可能なトラック運搬用の幹線を3路線開設した。
（3路線ともにひだ林業・建設業森づくり協議会へ下請発注し、技術研修会を行いながら実施した。）
- 平坦地では、軟弱な土質と開設時期が悪く、水処理に苦労した。
- 一路線で深いクロボク土層が現れ、路盤固めに相当量の山土砂を要した。

幹線（ひだ森林整備協議会に委託）

支線（組合自力施工）

作業システムの状況

・作業道開設 バックホウ	→	伐倒 チェーンソー ハーベスタ	→	造材 ハーベスタ	→	積込 グラップル	ー	搬出 フォワーダ
・既設道等	→	伐倒 チェーンソー ハーベスタ	→	造材 ハーベスタ	→	積込 グラップル	ー	搬出 トラック

その他

- 地元中学校の生徒を対象にした林業教室を開催した。
- 高性能林業機械による搬出の実演を行った。
- ひだ森林推進協議会を開催した。

森プロの成果

- 路網整備と高性能林業機械を導入した素材生産の低コスト化により、実際に利益還元することで、森林所有者が山に関心を持っていただけるようになった。
- 森プロを通じ、今後他地域でも計画される集約化施業への理解が一層深まった。
- 団地内の地域ごとに利用間伐モデル林を設置し、路網整備と高性能林業機械による伐出の展示に努めた。
- 各種研修会の開催によって間伐の必要性が一般の方にも理解されるようになった。
- 組合独自の中間土場を設置してシステム販売を行うことで、価格の安定と輸送コストの削減に繋がり、森林所有者に利益還元を図ることができた。
- 中津川においては、ヒノキの林分であることから、単木材積が少なく搬出量が伸びない状況であったが、森プロ団地内での作業道開設の経験を活かし、路網配置を工夫することにより、haあたりの搬出材積を伸ばすことが可能となり、所有者への利益還元を図ることができた。
- H22年度森プロ団地内で開設した全3路線をひだ森林整備協議会へ委託発注を行い、飛騨市における林建協働体制の構築に向けた実践的な取組みを行うことができた。

今後の課題

- 森林資源調査方法と作業路の開設について、プロジェクトのスタッフ全員が共通認識を持って取り組むこと。
- 降雪期までに現場が完了できるよう現実的な事業計画と進捗管理を行うこと。
- 実践的な施業プランを作成し、運用していくことが必要。
- 作業路開設のオペレータをさらに養成し、路網整備を先行させること。